

浄法寺 森林事務所月記

岩手北部森林管理署HPでバックナンバー公開中!

編集・発行
岩手北部森林管理署
浄法寺森林事務所
二戸市浄法寺町
小池2-1
TEL0195-38-2033

弥生 ふたたび季節は巡り...



てのらき
しんが歩
そさを
水くじ山
光…を
風緑恵浄ま

昨年4月から連載してきた本紙ですが、今月で最終回です。もともと一年限りと決め、「山の仕事や国有林の役割を、楽しくわかりやすくお伝えできれば」との思いで製作してきました。「楽しみにして

ます」と声をくださった皆さまのおかげで、なんとか完走することができました。「愛読本当にありがとうございます」とおっしゃいました。またいつかお会いしましょう!

【映画のお知らせ】「ウオーターボーイズ」の矢口史靖監督最新作『WOOD JOB! (ウツツエー)』の5月10日全国公開に合わせ、林野庁は木材利用ポイント事業とのコラボ企画を展開しています。原作の三浦しん著『神去なあなあ日常』もとても面白いのですが、映画は

「青春林業エンターテインメント」に仕上がっているそうです。これは観に行くしかない!



桃が描かれた絵皿

浄法寺総合支所二階にある漆絵皿展示室。ここに並んでいるのは、かつて一軒に二〇〇三〇枚揃えられ、野良仕事のおやつを取り皿などに使われてきた絵皿たちです。現在の漆器との大きな違いは、簡素な絵付けがなされている点。桃、銀杏、松、梅、南天などの縁起物が描かれています。一見誰にでも描けそうですが、思いきりよく筆を運ばなければならぬ難易度の高い仕事です。多種多様な絵柄が当時の暮らしに彩りを添えていたのでしょうね。

ちなみに当時の木地(きじ)漆を塗る前の白木のままの器)の材料はブナ・トチ・ホウなどで、原木を求めて、次第に安比川を安代方面に遡っていった歴史があるそうです。

昨年冬、東京の日本民藝館で開かれた「日本の漆」展で、江戸時代の浄法寺碗を観る機会がありました。煌びやかで技巧的に優れた漆芸は輪島や京都が中心ですが、東北の漆器はまた違って、民衆に親しまれた素材でおおらかな美があります。眺めていると同時にタイムスリップしたような気さえます。

【協力:市うるし振興室】



↑“よだれかけ”
と呼ばれる注ぎ口の文様がユニークな「片口」



木のスポットライト



↑ツキノワグマの右前足
右後ろ足→

里には春が訪れましたが、山はまだ厚い雪に閉ざされています。堅雪になったこの時期はトレッキングに最適。様々な動物の足あとが見つかります。写真は十一月のもので、隣に置いたポールペルでその大きさがわかりますよ。ほかに齧った跡、爪の跡、フンなどの痕跡を「フィールドサイン」と言います。めったに会えない野生動物の生活を想像させてくれますね。

【どぶろく】

先月、八幡平市「鷲の尾」の蔵見学をしてきましたが、どぶろくは日本酒の原型。米と米麴を使ってほぼ同じ原理で作られます。地域産品等として認定されている特区は全国一二〇市町村あるそうです。浄法寺で商品化されているものは「辛口」「甘口」そしていなぎびを原料とした「雑穀どぶろく」の三種類。どれも稲庭岳由来の岩桶坊(がんしょうぼう)の湧水から作られています。口当たりが良いのでつい飲み過ぎてしまい、後悔したのは私だけではないはず...

上記にある漆器の「片口」を使って一度飲んでみたいなあ。

では一年間お疲れ様でした。

乾杯〜!

